

新型コロナを撃退!

寅年にちなんで

虎の刺繍



竹林から今にも飛び出してきたような勢いのある虎が対に表されています。

これは、県指定文化財「虎の刺繍」です。今年、令和4年が寅年、ということでご紹介します。

「虎の刺繍」は木原城とのかかわりが深い文化財です。絵のようにみえますが、実は糸で丁寧に刺繍が施されています。永巖寺の寺伝によれば、天文23（1554）年、当時、木原城の城主であった近藤利勝が娘の手づくり品を寄進したもので、「娘十六歳のある夜、二頭の虎の夢をみて、その形を絹地に虎・竹・下草等糸で刺繍した」という伝承が残されています。下絵の様式や刺繍の手法に室町時代の特徴をうかがわせます。

昭和33年県指定文化財（工芸品）。

<もっと見たいときは・・・>

◆美浦村HP：カラー写真でご覧いただけます。（観光・イベント→美浦の文化財→文化財の紹介）

<https://www.vill.miho.lg.jp/page/page000462.html>

◆木原城址のカラー冊子パンフレット：文化財センターにて購入できます。1部100円

虎の刺繍に姫様伝記織って優雅な文化財（日和吟社俚謡集より）

「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は

「つ」「に」「の」
「へ」「み」「も」
「れ」「ろ」「を」



つ つくだに
佃煮は
みほむらさん
美浦村産が
いちばん
一番だ



つくだに 美浦村産が 一番だ

にほんに い 日本二位 霞ヶ浦は でっかいぞ

の 乗りしたいな 霞ヶ浦の 帆引き船

ぶな ヘラ鮎は テトラポットが ポイントだ

みほこはん 美浦湖畔 舟子大山 つづく土手

もど 戻すんだ 霞ヶ浦を きれいにね

れんこんは しゃきしゃきするよ おいしいな

ろ 艦を漕いで 藻狩り競争 なつかしい

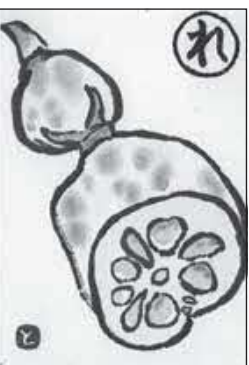
わかさぎを 霞ヶ浦で 釣りあげる



み みほこはん 美浦湖畔 舟子大山 つづく土手



も もど 戻すんだ 霞ヶ浦を きれいにね



に

にほんにい
日本2位
霞ヶ浦は
かすみがうら
でっかいぞ



の

の

の
乗りたいな
かすみがうら
霞ヶ浦の
ほび
帆引き船
せん



へ

へ

へら
ぶな
鮒は
テトラポットが
ポイントだ

れ

れんこんは
しやしやしきするよ
おいしいな



ろ

ろ

ろ
ろこ
艀を漕いで
もが
藻刈り競争
なつかしい



を

を

わかさぎを
かすみがうら
霞ヶ浦で
釣りあげる

美浦村が霞ヶ浦に囲まれていることから、「美浦かるた」には霞ヶ浦をよんだものも多々あります。

霞ヶ浦の姿は時代とともに変わっています。縄文時代の前、今から約二万年前の旧石器時代はとても寒い気候で、海面は100m以上低く、陸続きとなった大陸からヒトや動物が今の日本列島に移動してきました。その頃の霞ヶ浦は、底に川が流れる谷のような地形でした。

その後、暖かい気候になり海面も上昇します。陸平貝塚の貝を調べると縄文時代には霞ヶ浦が海だったことがわかります。霞ヶ浦は太平洋からの海が入り込んだ大きな入り江で海の一部でした。縄文人は貝を採ったり、丸木舟に乗って海に出て魚をとったり、霞ヶ浦を渡って他の地域に行ったりしたことでしょう。

古代の霞ヶ浦については、今から一三〇〇年ほど前に編纂された『常陸国風土記』に「流れ海」と表され、海の幸に恵まれた豊かな海であった様子が記されています。

戦国時代（中世）には霞ヶ浦から攻めてくる敵の様子がわかるようにと、木原地区の高台には木原城が築かれました。

江戸時代には船を使って江戸へ物が運ばれていましたので、霞ヶ浦沿岸には河岸とよばれる船から荷物のおし入れをする場所が所々にありました。豊かな海であった霞ヶ浦は中世の頃から漁業に関する自治的な組織も生まれ、江戸時代には霞ヶ浦四十八津として知ら

れる霞ヶ浦沿岸及び河岸の四十八ヶ所（津）が漁業に関する取り決めを定めたりしたこともありました。霞ヶ浦は長く漁業や水運で賑わいを見せていました。

昭和十代、大山地区に鹿島海軍航空隊が開かれたのも霞ヶ浦に囲まれた場所であったことが選ばれた理由のひとつです。

昭和三十年代に常陸川水門ができ、昭和四十年代の終わりには霞ヶ浦に海水が入り込まなくなりました。さらに平成の初めに霞ヶ浦の沿岸が整備され、洪水などの被害が少なくなりました。

佃煮もレンコンも霞ヶ浦の特産品です。ワカサギ漁で知られた帆引き船は昭和四十年頃まで活躍していました。霞ヶ浦周辺でハスが盛んにつくられるようになったのは昭和五十年代頃からで、今では日本一の生産量を誇ります。

「美浦かるた」は、共に輝くみほの会（美浦村女性行政推進協議会）が平成二十六年に制作した、美浦村の魅力を紹介しているかるたです。読み札は、村内小中学校の児童生徒、俳句会、広報みほ等を通じた応募作品の中から選び、絵札は、みほ絵てがみ同好会「彩」が読み札にあわせて描きました。

美浦かるたは、図書室で借りることができます。ほか、美浦村HPでもすべての絵札と読み札をみることができます。

美浦村HPは、
子育て・教育→図書室→美浦かるた で検索
<https://www.vill.miho.lg.jp/page/page001902.html>



リクル&タイラ

縄文時代の前期(今から約6,500年前)。
みどころは3つ!

1つめは縄文土器!

似ているけどよく見ると文様のつけ方に違いを発見。そこから考えられることは...? 展示を見てね。



2つめは石器!

縄文人が小型の石器をどのようにして作ったのか、その過程を資料からみてみよう。

3つめも石器!

良く磨かれた磨製石斧とよばれる石の斧。欠けたり、折れたりしたら、直したり、別の道具に作り替えたりして使っていた様子がわかりました。

「陸平通信」107号・108号の2回にわたりご紹介した木の根田遺跡と内出遺跡の資料を1月から文化財センター展示室にて公開しています。新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨時休館中の場合もありますが、ぜひ見に行ってください。



1つめは石製模造品!

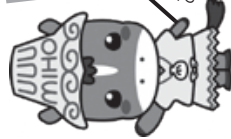
古墳時代には石で剣や鏡などを模したミニチュア製品やまが玉、小玉が見つかります。資料から製作の過程を紹介。



開館時間

9時～17時

休館は月曜・祝日



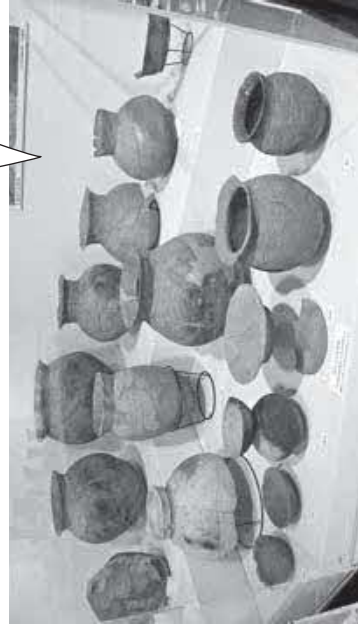
みほーす

こちらは古墳時代の中期
(今から約1,500～
1,600年前)。
みどころは2つ!



2つめは土師器とよばれている素焼きの器

土師器は使われている粘土に地元の水や筑波山麓などいくつかの産地があることや器の形が少しずつ変化していることがわかったよ。実際に見てみよう。



展示のみどころ
ごあんない!



Q 展示で紹介されている遺跡の場所はどこ?

A 霞ヶ浦を望む台地上で、両遺跡は隣接していました。発掘調査後に造成され、現在、おかだいらゴルフリンクスになっています。